

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんのが活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

Stay Smile 働いた後の満足感がたまらない!

町新規就農支援事業

幼少の頃より父親の疎開先での経験で食物を作っている方々の強さなどを聞き、食べ物を作る事にずっと興味を持っていました。また、自然がすぐ近くに感じられる環境で生活し、仕事に就きたかったこともあり、結婚を機に就農を決意しました。

農業を志し、原村の中央実践大学校にて短期のコースを受講した際、富士見町を見て、その環境に惚れ富士見町での就農を決めました。2012年より立沢にてキャベツを中心とした野菜で独立営農を開始し、現在2haの借入地を耕作しています。

今後は、借入地を増やし、荒廃地を減らし、雇用を生み、少しでも富士見町と地元の方々に恩返しができるようになりたいと思います。それと同時に農業の素晴らしさ、魅力を後世に伝えられる1人となり情報を発信していくべきだと思います。

どんな職種でも楽な仕事はありません。農業もそうだと思います。しかし、1つ1つの作業や工程を完了し、1日の仕事を予定通り、または予定以上に進めることのできた日の、家に着いた時の満足度は、私が今まで就いてきたどんな仕事でも感じる事ができなかった素晴らしい感覚です。

私はこの感覚をこれからも大切にし、日々精進していくたいと思います。今後ともどうかよろしくお願いします。



▲内田善崇さん

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「マニュアル」と「経験」

ある研修会場で、子育て支援に関わっている年配の女性が、講演をされた大学の先生に「私たちは教えられなくても母親になった時には赤ん坊を抱くことができたのに、今の若いお母さんは赤ん坊の抱き方も教えないといわからんんです。」と、困ることとして話されました。

講師の先生は「あなたは本当に教えられなくてもできたとお思いですか？」と問い合わせられ、「はい」と答えた女性にはっきりと「それは違いますよ。あなたは教えてもらったという自覚がないだけで、どこかで赤ん坊の抱き方を知る経験をしたから、母になった時にできたのであって、生まれつき本能的にできたわけではないのですよ」とおっしゃいました。

今の母親は母親になった時に何も知らない、育児本や子育てサイトをマニュアルにして子育てしている、と言われがちです。確かに否定できない部分もあるかもしれません、でも知らない、経験していない若いお母さんたちが悪いのではなく、核家族化が進み大人になる過程で小さな子どもと関わる経験する機会を社会が奪ってきたからなのです。

一世代上のお母さん方も、教えられたわけでなくとも誰かがやっているのを見て真似てできるようになったわけで、そういう意味では今のお母さんたちが、マニュアルを頼りに子育てをするのとさほど変わらないと言えます。



大切なのは、教えてもらったこと、本で知ったこと、見たこと、を機械的にどの子にも当てはめるのではなく、やってみてどうかを目の前の子どもを見てちゃんと考えること。スタートがマニュアルでも、失敗と成功の経験を積めば、自ずと力になります。若いお母さんたちのやり方を尊重しつつ、少し上の世代の者が生きたマニュアルとして、若い世代の子育てを応援することが、生きてくる子どもたちを社会で守ることに繋がるのだと思います。子育てひろばAiAiは、先輩ママが現役ママを見守りながら自分の経験を伝えるサイクル(=循環)を大事に育てます。

富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

第3日曜日は何の日でしょう？ 一家庭読書の日です。――

町では家庭読書の日として、～読書で家族のふれあいを～目指しています。年代別にご紹介する活動内容として、今回は家庭へ着目しました。

※家庭へのはたらきかけでは、以下の3点に力を入れていきます。

- ① 身近なところに本を置こう → 保育園の本、学校の図書室、本屋さんを活用！
- ② テレビ・ゲームの時間を減らそう → ご家庭でぜひ声掛けを！
- ③ 図書館や本屋さんへ行こう → 魅力的なイベントのご紹介！

※町図書館では第3土曜・日曜日に20冊貸出を実施中です。

*町図書館「のりものおはなし会」

日時:6月16日(火)午前11時～
場所:町図書館

*「本屋さんといっしょ！」

①5月3日(日) ②8月8日(土)
③12月12日(土) 時間:各日午前11時～
より身近に本を感じてください☆
今井書店富士見店で開催します！



▲「のりものおはなし会」
乗ったり触ったりできる体験型おはなし会



▲「本屋さんといっしょ！」
図書館のおはなし会が本屋さんへやってきました。

次回は乳幼児についての活動のご紹介をします。

Stay Smile 夢を追う人びと～ふじみの発掘の歴史 井戸尻考古館 ☎64-2044

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘よりも前にも、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されていました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

つぼだいら いせき

坪平遺跡（大正11年）

「こりゃあ、なんぞら？」大正11年の春、本郷村立沢の植松夏平さんは、坪平の畑で偶然大きな石を掘り当て、人の形をした石“石偶人”※を見つけ出します。民族・考古学者の鳥居龍蔵博士が発掘し、大きな石が「ドルメン」とよばれるヨーロッパの墓（支石墓）と似た構造であるとして「ドルメン類似遺跡」と呼びました。正しい意味でのドルメンとは違うのですが、考古学史上記念すべき遺跡として、現在は町の史跡に指定されています。※石偶人は鳥居博士の命名



▲“石偶人”
(立沢集落組合所蔵)



▲ドルメン類似遺跡
(『諏訪史 第一巻』より)

たつざわ いせき

立沢遺跡（昭和27年）

立沢文化財保護委員会は、郷土史編集のために羽場の水野三平さんの畑を発掘しました。宮坂英式さん、小池晴豊さんのほか、本郷中学校の生徒も参加して四軒の竪穴住居址を発見、縄文中期の素晴らしい土器が出土します。遺跡には当時の住居が復元されていた時期もありました。

あらみち いせき

新道遺跡（昭和28年）

高森の小林武さんの敷地でみつかった台付土器を「ツトムさ」こと小林勉さんが藤森栄一さんの諏訪考古学研究所に持ち込んだのをきっかけに「TONちゃん」「マッちゃん」と藤森さんのお嬢さん達が発掘に訪れます。ちなみに当時明治大学生の「TONちゃん」「マッちゃん」は、のちに高名な考古学者となって夢を追い続けた、戸沢充則さんと松沢亜生さんのことです。



▲台付土器
(諏訪市博物館所蔵)

参考:『諏訪史 第一巻』、『立沢史年表』、『考古学とともに』藤森栄一 写真提供・協力:諏訪教育会、立沢集落組合、諏訪市博物館